

第6回天草市総合計画策定審議会議事録

- 1 開催日時：平成27年1月28日（水） 14：00開会
- 2 場 所：天草市役所 第1委員会室
- 3 出席者：
 - 委員 中川委員、福本委員、松下委員、岩見委員、俣野委員、右山委員
玉村委員、北岡委員、上村委員、砂田委員
(欠席：松本(太)委員、浜委員、松本(孝)委員、野崎委員、猪原委員)

天草市 金子総合政策部長、小川政策企画課長 他

- 4 提出資料：
 - ①第6回総合計画策定審議会 次第・委員名簿
 - ②第2次総合計画基本構想・前期基本計画（案）
 - ③市民が住み続けたいと思う環境指標（案）
 - ④政策概要書（政策1～政策41）
 - ⑤平成26年度市政に関するアンケート集計
 - ⑥第2次総合計画（素案）パブリックコメントでの意見
 - ⑦第2次総合計画並びに前期基本計画について（答申）（案）
 - ⑧第5回総合計画策定審議会議事録

5 内 容

〔1〕開会

〔2〕会長あいさつ

〔3〕議題

議題1 パブリックコメントの意見について

事務局より、配布資料に基づいて説明

(会長)

今の説明のとおり、1枚目に関しては総合計画の素案に対して反映ないし検討する観点として出していただいたものであり、審議会としてはその6つの意見に対して、どう考えるかといったことを確認する必要がある。2枚目以降に関しては、審議会の運営や市政に関する意見であり、これについては審議会としていただいたものであるが、市の執行機関として整理することができるかと思うので、事務局にご検討いただいて公表していただくといった方針で進めてもよろしいか。

異議が無いようなのでそういった方針を進めさせていただければと思う。それでは、1

枚目に関してご意見等あればお願いしたい。

(委員)

事前にパブリックコメントは読ませていただいた。それに対する回答としては、個人的には及第点であろうと思っている。ただ、前々から感じていたこととして、いろいろなことを広くやっていかなければならないという性質であるがゆえに、一つ一つのコメントに対して明確な答えが出せない苛立たしさのようなものがあると思ったところである。それも入っているという言い方で終わってしまっているのが、若干物足りないような気がしている。

(会長)

私も同じような観点で思っているところである。ただし、総合計画というものは総論的なものであり、全体に関してどうしたら良いかということや、目指す方向を示すこと、こういうことが達成しておくべきことなどを示すものである。より具体的なことは専門部会等を設置して議論をしている。そのため、全般的なこととしての説明はこうなってしまうと、確かにもどかしい。しかしながら、この後に、具体的なことを検討することになる。総合計画でいうと、三層構造という言い方をするが、基本構想、基本計画を作成し、それらを踏まえて実施計画を作成する仕組みとなっている。審議会としては基本構想、基本計画については議論をするが、実施計画については具体的な行政の活動として、各行政の部署ないし、各部署が所管している計画群で行うこととなってくる。そのため、ここで指摘されたことないし、市民の方からいただいた意見については、実施計画に引き継いでいただきたいということを審議会としては明確にしておきたいと思う。

(委員)

宝島の宝とは何なのかといった意見があるが、これについてはたぶん答えられないだろうと思っている。それは受け取る側によって変わってくる話だろうと思うので、意見に対する回答に、多様なニーズに応えられる地域資源が天草にはたくさんあるといった内容の記載を追加するべきではないかと思う。

(事務局)

そういった修正を加えさせていただければと思う。

(委員)

パブリックコメントの原文を事前に送付してもらい読ませていただいたが、これだけの分量を考えて作成されるのは時間もエネルギーもいることだと思うので、尊敬に値す

るものだと思ったところである。それで、今日のお示しいただいた資料の中で感じるごととして、行政と市民の間にしっかりとした信頼関係がないのではないかという気がしている。市民側からいろいろと言っても、本当にしっかりやってくれるのかといった感じを市民が抱いているのではないかといったことを思ったところであるし、市民から意見が出たときに、真摯に受け止める部分と、面倒くさいといった感覚で受け止めているような感じがなんとなくしたところである。自治体を存続させるための市民ではなくて、市民のための自治体がしっかりと機能しなければならないと思っているので、総合計画で書かれている内容を生かして、これからの4年間ないし8年間でお互いに信頼関係を築くことができるような運用を大事にしていってほしいと思ったところである。もう一点、総合計画を作るときに行政が作る総合計画という切り口で言うと、行政として自分達がかこれからどうしていくかといった計画を練りつつも、天草市全体がどうなっていってほしかといったことも考える中で、市民に期待することを行政が市民に強制することはできないと思うし、市民がこれから4年、8年の間でどんなふうを考えや感じ方、ニーズが変わっていくかといったことは予測できない部分もあるかと思うので、総合計画の中で取り扱う行政と市民の分量の割合といったものについて、審議しながらも難しいと思いながら考えていた。例えば、総合計画に記載の市民ができることが行政への協力しかないのは疑問であるといった意見でも、行政が作る総合計画の中での市民の取り扱いというものは難しいと感じているところである。

(会長)

おっしゃるとおり、こういったことについて、やはり難しいところはあると思っている。しっかりと考えられているご意見なので、審議会としても受け入れていく必要はある。もちろん委員の皆さんも意見はたくさんあるだろうし、市民の皆さんもお考えのことは多々あるかと思う。しっかりと伝えていただく方法がなかなか難しく、市民の方からの声や実感の受け取り方がなかなか難しいといったことが、市民と行政が一緒に取り組むときの難しさでもある。審議会の場でできることも限られているわけで、様々なことを組み合わせてやっていかなければならない。今回も、限られた時間の中で短かった側面はあるかと思うが、できる限りのことはおそらくやってきていただいていると思っている。天草市が選択されているのは、市長の選挙があった年度のうちに総合計画を策定しようということで、10ヶ月の間で審議会や、まちづくり協議会との意見交換、各専門部会でもいろいろな方々の話をききながら検討するなど、様々なことを集めてきたのではないかと思っている。さらに難しいのは、決して市民の皆さんは、行政を信頼していないとか、文句を言おうと思っているわけではないが、言わなければならない場面があると、こういうことは必要ではないか、といったことを言わなければならないようになってしまいが、実は信頼もしているという側面もあるだろうと思っている。しかし、そこがうまく伝わらないと、逆に行政がかたくなになってしまうといったこともあると思

う。北風と太陽ではないが、コメントというのは北風になりがちで、この資料も保守的になる部分が出てくると思う。しかしながら、天草市で実現していただきたいのは、太陽の方も重要なことであって、できるだけ伝えやすい方法を持っていただきたいし、両方できれば良いと思っている。

各自治体において様々な総合計画があるが、行政が行う活動を市民にわかりやすく示し、行政の経営のうえで活用しようという自治体もあれば、市民との協働のために策定しようという自治体もある。天草市の場合、行政がしっかりとやっていくための計画としてつくりたいという前提でスタートしているが、それだけではやっていけないということもあり、市民ができることといった表現になっているのであろう。それは行政の手伝いといった意味合いだけでなく、市民の方々が幅広く実践できることも含めて例示として挙げておくことで、行政と市民の方々が一緒にやることを、行政の内部にも伝えていくということを行っているのではないかと思う。そのため、もどかしさはあるが、最初の一步として、行政への協力に限定せずに、さらにより幅広く、こういったことを市民の方々とやっていくと、より良い地域になるのではないかといった例示が記載されたということだろうと思う。そして、後期計画ないし、第3次総合計画の基本構想をつくる際に、市民協働について経験を積むことで、より良いものにつながっていくことになると思う。

(委員)

人口減少や税収不足等については、全国の各自治体が直面している時期だと思っている。今までのように高いサービス、住民に対する公共サービスを行ってきたが、ここにきてそういった状況が表面化してきたところもあるだろうとされていて、これからの行政というものは、緊縮財政でいて、高福祉ではなく中福祉などといった中でより良いサービスを行っていくことが課題になっていくだろうと思っている。今までは、全てやってほしいといったことに近い状況であったと思うが、これからの自治体の在り方というものは、情報開示をしながら削るところは削り、重点的に取り組むところには投資するといった方向で、市民の方々の理解を得ながら進めていくことが重要であろうと思っている。我々も審議会の委員になったことを機会と捉え、今後はさらに行政に対して注視していかなければならないと感じたところである。

議題2 成果指標について

事務局より、配布資料に基づいて説明

(会長)

今ご説明いただいたとおり、成果指標において、現状について測り、もしくは統計から得てきた数値などについて、4年後、8年後の数値を案として根拠をもって何らかの

観点で設定しているものである。特に市政アンケートで現状を測っているものについては、統一的な考え方として、どちらでもないと回答した人を8年後にはそれより上の回答となるように追及していくといった考え方で、案として目標値を設定しているといった説明であった。それでは、気になった点などご意見等をお願いしたい。

(委員)

政策1、農業の振興の部分で、主要農家のうち認定農業者の割合といった指標と農地整備率などが設定してあり、目に見える形の指標となっていて適当であるかとは思いますが、農家の所得や新規就農者について、現在どのようになっているか、どれだけ上がるか、または上げるかといったことなどについて、非常に難しい問題だとは思いますが、こういった数値を指標として取り上げなかったことの原因についてお尋ねしたい。

(事務局)

農家の所得については、専門部会下の作業部会での検討の経緯を把握していないので、後日確認をさせていただきたいが、推測として、どの数値をもって農家所得とするかといったことがなかなか設定し辛かったのではないかと考えている。新規就農者については、新規就農者に対する補助等も行っており増加傾向にある中、実施計画の部分で把握していくことを考えている。

(委員)

政策20、人権教育及び人権啓発の推進で、人権が尊重されていると感じる市民の割合について、国の法律にもうたわれている中で、現状値が低いこともさることながら、目標値についても設定が低いのではないかと。

(会長)

確かに重要な観点であるかと思う。しかし、現実をみた上で、8年間という期間で考える必要もある。アンケートの結果として尊重されていると感じている人が、約26%であった。この数値をこの先どれだけ上げられるかがこの計画では重要であって、現状を測ってみて、8年間という期間の中でどこまでいったら良いのかといったときに、少なくとも8年間で、どちらでもない、と答えた人を、最低でも、どちらかといえば思う、以上に上げていこうということであった。もっと上を目指すといった考え方もあるかもしれないが、8年間で、まずはそういった考え方でやっていこうというものである。さらに、アンケートに答える際に、そもそも尊重とは何なのかがよく分からないといった点もあり、どちらともいえない、わからないといった回答をしやすい項目であると言える。アンケートとして質問することに馴染むものなのかといったこともでてくるだろう。

また、本当に尊重されていないであろう方々にきいているわけではなく、市民の皆さんに一般的にきいたものである。その結果がどちらでもない、わからないが占める割合が多かった結果となっている。やや指標としては難しい傾向のものだろう。考え方としては、今の案は、感じている人を増やしたい、というものになるが、別の観点からいうと、感じていないという人を今後下げていくといった観点もあるかと思う。尊重されていると感じるかときいた時に、感じていないということの方が、よっぽど問題かもしれない。今回その回答が約12%あったわけであるが、この方々を下げるということの方が重要だといった考え方もできると思う。数値としてはそれぞれ毎年とっていくわけで、今後検討をお願いできればと思う。

(委員)

政策2、林業の振興の施策計画Ⅲの天草産材の需要拡大と雇用強化について、雇用強化に関する指標がないので、そういった状態を測る指標を検討してみてはどうか。また、政策13、学校教育の充実の施策計画Ⅳの看護専門学校の充実について、指標が国家試験合格率となっているところで、現状値から目標値まで全て100%となっており、もちろんそういう観点も重要であるが、あまり進歩がないように思われるので、指標に天草で就業した人の割合といった指標の追加を検討してはどうか。

(事務局)

政策2の天草産材の需要拡大と雇用強化の指標については、現在の林業関係の雇用というと、森林組合に委託される間伐作業であるとか、そういったものが林業関係では主になっているので、そちらについては雇用拡大という指標は扱っていないところである。ここで雇用強化というタイトルになっているのは、天草産材の需要拡大を図ることで、建築関連等での雇用拡大を図ろうといった意味合いで記載しているものになるので、雇用の強化とはしているものの、林業関係だけではなかなか雇用拡大に直結するとは言えないので、指標には入れていないものである。

(委員)

政策2については、この記載だと今のような説明が伝わらないので、例えば関連企業といった意味合いの記載を追加してはどうか。

(事務局)

政策2については、関連産業といった内容を追加させていただきたい。

(委員)

政策13について、現在、中学生が高校に進んでいくときに、将来看護師を目指した

いという子どもたちが、天草外に出ていくといった現状があるので、そういう子どもたちも含めて、天草に残って天草のために職に就いていくような、そういった子どもたちのことまで考えての指標になればと思ったところである。

(委員)

充実ということで全て網羅されるかとも思うが、今の話にもあったようにもう少しカリキュラムを工夫するとか、将来に向かって天草の子どもたちがたくさん学べるような方向にもっていくことが大事ではないかと思っている。

(事務局)

政策13については、確かに県外に出ていくことが多いのも事実で、今回看護師の修学資金といった制度を設けて定着率を上げていこうということも行っているところである。医師会等と連携して地域に根ざす看護師を養成するといった記載もしているところなので、再度内部で協議をさせていただいて、そういった指標について追加することの検討をさせていただきたい。

(会長)

これまでの審議会の議論や、今後の様々な検証等を踏まえ、期間中であっても必要性に応じて、今回の指標の部分なども見直す方向で取り組んでいただければと思う。

(委員)

高校の進路指導部で仕事をしていた時のことになるが、就職率がほぼ10割になったので、その後卒業生に対して、例えば3年経ってもその職場に勤めているかといったことや、第1希望に就職できた生徒の割合などをきいてさらに満足度を高めていくような方法をやっていたので、やはり看護専門学校に関しても地元で就職できたのかなど、そういったことを盛り込めたら良いのではないかと思ったところである。また、3点ほど質問になるが、政策1の農業の振興の部分で耕作放棄地を取りまとめて市民が活用しやすい形にするような、農地バンクのような話が以前あったかと思うが、分野別計画等の中ではそういった指標の記載があるのか。2点目は、政策3の水産業の振興で新規漁業就業者数の指標があるが、これについては完全に外部から新規での就業といった捉え方で良いのか。3点目は政策13の学校教育の充実で品目ベースの地産地消率といった指標があるが、県内産なのか天草産なのかなど、どういった解釈で良いかをご教示いただきたい。

(事務局)

1点目の農地バンクについては、現在、農業委員会の方で耕作放棄地を農地バンクと

して登録するような制度を実施しており、実際、企業含めて借りたいという方はかなり増えてきているような状況となっているが、耕作放棄地自体は多くある中で、貸し借りの話になると、なかなか先に進まないといった現状となっているため、指標の設定というよりも引き続き所有者の方の意識を変える啓発といったような取り組みを行っていきたいと考えている。また、人農地プランという地区ごとに耕作放棄地が出たところを、担い手に請け負ってもらおうといった制度を推進しているが、その中で各地域においても貸借が推進されていけばとも考えているところである。2点目の漁業の新規就業者については、後継者ではなく新たに参入される方を対象としていくことで考えている。3点目の地産地消の指標については、熊本県が実施している熊本県産の食材を学校給食に使用する調査の中の天草産の食材を抽出した数値となっているものであり、わかりやすいようにその旨を追記させていただければと思う。

(会長)

各指標については、出典をそれぞれ整理をお願いしたい。また、それぞれの数値の設定根拠についても、どういった根拠で設定したのか記録として残しておいていただければと思う。

(委員)

政策11の地域コミュニティ活動の推進の指標について、地区振興会の活動に満足している市民の割合が約30%となっており、かなり現状として低いと感じているところである。そのため、政策の課題について記載があるが、強力に押し進めていただく必要があると思っているところである。例えば、地域を担うリーダー的存在となり得る人材の発掘・育成に取り組んでいく必要があるということで記載があるが、今の考え方を改めて、さらに強化できるようなものにしていただき、平成34年度の目標値については、約60%と言わず、80%ぐらいの目標値が掲げられるように今後さらに推進していただくをお願いしたいと思う。

(会長)

各指標については、今後、毎年現状値がでてくるものとなる。そのような中で、もしかすると、逆の方向に下がることもあるわけで、それは行政の評価に限らず、市民活動としても、ここは意識的にやる必要があるなどといった議論がしやすくなる。また、なかなか変わらないものも出てくるであろう。そういったことに関わる政策を意図的にしなければならぬのではないかと、といった議論をする必要もでてくる。後期計画の検討時や数年後にどうするのかを議論する際に利用するのが、こういう数値の意味になる。今の段階では、もっと上げなければならないということを確認して、ぜひ様々な活動について、しっかり取り組んでいただければと思う。

(委員)

政策13、学校教育の充実で指標に学校を楽しんでいる児童・生徒の割合があり、現状値92.7%となっていて、ほとんどが楽しいと感じているように見えるが、自分の知り合いの中でも、学校に行けなくなってしまったというケースが4件ぐらい、すぐに頭に浮かんでしまうといった実態から言うと、何か違和感を覚えてしまったところである。この指標の取り方が、学校に元気に通ってきている子どもたちを対象としているものであれば、学校に行けなくなってしまった子どもたちは楽しくないと言える場がないということになるので、もう少し工夫が必要ではないかと思ったところである。

(会長)

もちろん指標をどうするかといった議論はあり得るが、まずこの数値の出典についてきいたうえでどうするかといったことを考えていきたいと思う。

(事務局)

この指標については、全国学力調査の数値からもってきているものである。

(会長)

統計上取れるかどうかといったことは一つ観点である。不登校の児童や生徒が何人いるかということは学校で把握をしているとは思いますが、統計として示せるかということがあると思う。これでカバーできないということであれば、次のタイミングで再検討をするような形になるかと思うが、今回はこれでカバーしているといった解釈でかまわないか。

(委員)

やはり何か違和感が拭えない。例えば質問の項目が、自分の周囲でいじめがあると知っているといったものであれば、おそらく何人もの児童、生徒が知っているといった回答をするような気がしていて、その時に受けた印象と、楽しいが92.7%だったという印象は違うだろうと思うが。

(委員)

今の学校を楽しんでいる児童・生徒の割合の次のページに学校を過ごしやすいと感じる児童・生徒の割合といった指標があるが、この違いについてお尋ねしたい。

(事務局)

過ごしやすいについては、施設や環境面についてどう感じているといったことを質問しているものといったところで理解していただければ良いかと思う。

(会長)

子どもたちに質問するという調査の難しさといったことがあるだろうと思う。それを取れるタイミングで取れているものを使うしかないといったことがあり、一方で実数として取っているデータであれば、使って良いかといった議論も別途でしてくるだろうと思っている。例えば、子どもが欠席しているのは何日なのかといった数値が存在はするが、公表しても良いのかといった別の観点が出てくるか。統計として存在するもので、これに近いもので指標を掲げたということであろう。今後どう改善していくかは、実施計画でやっていくことで、統計上の難しさは仕方がない部分もあり、この数値でみていくしかないということで選択されたのではないかと思う。ただし、本来であれば取りたかったということも大切である。

(委員)

政策4、商工業の振興で成果指標名にポルト前総通行量調査があり、計画内容の部分でイベントを行うと通行量、集客は確かに多くなると思うし、それ以外にも様々な取り組みを行っていらっしゃるかと思うが、それだけではなく、底上げというか、基本的な数値を上げていくようなことが何か考えられないだろうかと思ったところである。また、これはポルト前とのことだが、牛深地域についてはこういった指標が考えられなかったのかお尋ねしたい。もう1点、政策27の自然環境の保全と活用の部分で、生ごみ処理容器等の設置について記載があり、過去に行政から補助をいただいて自分もコンポストなどを買ったりしていたが、現在もあるのか。あるのであればどういった効果があがっていると考えているのかご教示いただきたい。

(会長)

そもそもの考え方の確認として、基本計画において掲げる指標というものは、あくまで、様々なことを行った結果として変わるものを設定している。どれだけ活動したかや、例えば、どれだけお金をかけたかなどは、基本計画の指標にはしないといった考え方で設定している。すなわち、成果に関わる指標を並べることになるが、その中でも、特に象徴的なものを掲げる整理をしている。様々な地域でいろんな数値を測った方が良いと思うが、これが変われば他にも変わるものを代表的に設定していると思う。もちろん、他にもあるだろうし、これが妥当かどうかといった議論もあるが、今日のタイミングは、他の指標もあるのではないかといった議論はちょっと際限がないところかと思っている。牛深地域がとれたかどうかについては、事務局からご説明いただきたい。

(事務局)

牛深地域分については把握していないため、数値の有無について確認させていただきたい。なぜポルト前なのかといったことについては、現状値については毎年同じぐらい

の時期に平日と日曜に測ったものの合算値となっている。たまたまその日にイベントが開催されていたかどうかまでは把握をしていないところではあるが、これを増やすことが商店街が賑わっているといったことを表す数値になると考えているところである。また、中心市街地の中でポルト前以外についても把握はしているところであるが、旧ニチイがあった場所であり、それが閉鎖後に商店街が衰退していったことから、ポルト前が一番妥当ではないかとの考えで設定をしているものである。

(会長)

もう1点の政策27に関することについては、実施計画の中での観点になるかと思うので、今後実施計画を検討する際に考慮いただければと思う。

(委員)

政策37、公共交通体系の整備の指標に航空路の利用者数があるが、来年度から機体を更新する中で、目標値の妥当性もさることながら、採算ベースに乗るように今後より一層努力してほしい。

(委員)

政策27の自然環境の保全と活用の指標に資源化率があり、現状値23.2%のものが目標値として30%と設定してあるが、8割、9割といった数値は無理としても、23が30になるというのはちょっと頑張ればできるのではないかと思ってしまう。実は7%あげるだけでもかなりすごいことかもしれないが、ここについては非常に高い意識が求められると思うので、こういった分野についてあまり知識がない中での意見ではあるが、もう少し高い数値目標であっても良いのではないかと思ったところである。

(事務局)

1%資源化率を上げるということだけでも非常に大変なことであると認識している。資源化の取り組みについては、分別収集の徹底であるとか、環境保全美化推進員の方々のご協力、各地区長の方々のご協力などにより毎年取り組まれているところであるが、人口減少の中、一方でごみの全体量は増加している状況にある。そのため、ごみの量自体をまず減らそうということと、資源化率を上げるべく、さらに分別収集の徹底を図っていこうということで取り組んでいるところである。そのようなところで、30%という目標数値を達成するためには、啓発もさることながら、市民のみなさんに相当なご協力をいただく必要があるという認識でいる。

(委員)

政策38の情報化の推進で施策計画Ⅲに光ケーブル活用の記載があるが、個人が使い

易いような環境の整備といった意味合いまで含まれているのかどうかご教示いただきたい。

(事務局)

市の光ケーブルについては、制度上、個人や事業者への直接の貸し出しはできないこととなっている。あくまでも、NTTやケーブルテレビなどの通信事業者への貸し出しを行うこととなっており、そこを通じて個人の方の活用につながっていけばと考えている。

(委員)

政策40の組織力・職員力の向上の指標で専門研修受講者の割合があり、現状値が38.8%に対して、目標値が54.4%となっており、それに合わせて職員数が1,042人から761人になるということである。そのため、専門研修受講者の割合は増えるような目標値となっているが、実数で言うとそれほど増えないかと思うが、どのような考えで設定したのか。

(事務局)

確かに受講者の実数に関しては横ばいぐらいになることを想定している。職員数が減ってくる中で、その割合としては上がってくるといった数値となっている。

議題3 環境指標について

事務局より、配布資料に基づいて説明

(会長)

目標値については、基本的に議題2の成果指標と同じ考え方で設定をしているとのことであったが、これに関してご意見等あればお願いしたい。

議題4 第2次天草市総合計画並びに前期基本計画（素案）について

(会長)

これに関しては、先ほどまでの指標の設定で確認すべきことは終了したことになるが、これまでを振り返って何かご意見等あればお願いしたい。

(委員)

具体的には基本構想、基本計画を踏まえた実施計画での話になろうかと思うが、天草を出て行った方々ができるだけ多く戻ってくるような運動というか、そういった政策を

考えてほしい。また、農業者数の維持や農業所得の増加のために、今おろそかになっている土づくり運動のような政策を行っていただければと思うし、農業経営の安定や技術の向上のために、農業改良普及所の設立を検討いただければと思う。

(会長)

最初にご発言いただいたように実施計画での観点として参考にして頂きたい。他の委員の皆さんもこれまでの活動の中で様々な気づきがあったかと思うので、何かあればメモのようなものを事務局に提出いただければと思う。それを実施計画の検討の際の参考資料として活用してほしいということを審議会として申し送りしておきたい。

議題5 答申について

事務局より、配布資料に基づいて説明

(会長)

事務局から説明があったが何かご意見等があればお願いしたい。

議題6 その他

(会長)

予定していた議題は以上となるが委員の皆さん、事務局から何かあればお願いしたい。それでは以上で、審議会を閉会させていただく。